

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-3
地域生活交通の確保

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 交通対策課長 小笠原 唯真 電話番号 0852-22-5898

事務事業の名称	JR利用促進事業	
目的	(1) 対象	JR線を利用する県民や観光客
	(2) 意図	利用しやすいダイヤや運転本数を確保することにより、JR線の利用促進を図る
事業概要	山陰本線、木次線、山口線の活性化を図るため、各協議会が実施する利用促進事業に対して支援を行う。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 年間利用者数	目標値		6,350.0	6,350.0	6,350.0	6,350.0	千人
		取組目標値						
	式・定義 県内JR各駅の年間乗車人員の合計	実績値	6,350.0	6,204.0	6,288.0			
		達成率	-	97.8	99.1	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	381	500
うち一般財源(千円)	381	500

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基じた現状)

各線区の年間乗車人数(単位:千人)

線区	H26	H27	H28	H29
山陰本線	約5,872	約5,910	約5,787	約5,862
木次線	約261	約263	約244	約238
三江線	約56	約55	約56	約74
山口線	約106	約121	約117	約114

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- 木次線においては、全線開通80周年を迎え、実行委員会により沿線住民や地域づくり団体と共に各種事業が行われ、沿線住民等の木次線利用の機運が高められた。
- 三江線においては、路線がなくなることを惜しむ利用者の増に加え、沿線地域のPR、魅力づくり、イベント開催等により前年の利用実績を上回った。
- 山口線においては、利用促進のため携帯時刻表、クリアファイルを作成・配布し利用促進PRを実施した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- H29の木次線、山口線の年間乗車人数はH28と比較して減少した。
- 各線区の乗車人数は、山陰本線では直近5年ほど横ばい傾向であるが、木次線、山口線では減少が続いている。

②困っている状況が発生している「原因」

- 自家用車の普及や少子高齢化の進展により、山陰本線、地方ローカル線とも長期的に見ると利用者数は減少傾向にある。

③原因を解消するための「課題」

- 県内のJR線について、沿線団体が実施する利用促進事業に対して支援を行うなど、引き続き利用促進に取り組む必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 県内各線区とも利用者が減少傾向であることから、更なる利用促進に沿線自治体と協力して取り組んでいく。
- 木次線においては、今年度から新たに「木次線利活用推進協議会」が設立され、沿線市町、観光協会、商工会など地域一体となって沿線住民とともに利用促進に向けた取組みを強化していく。